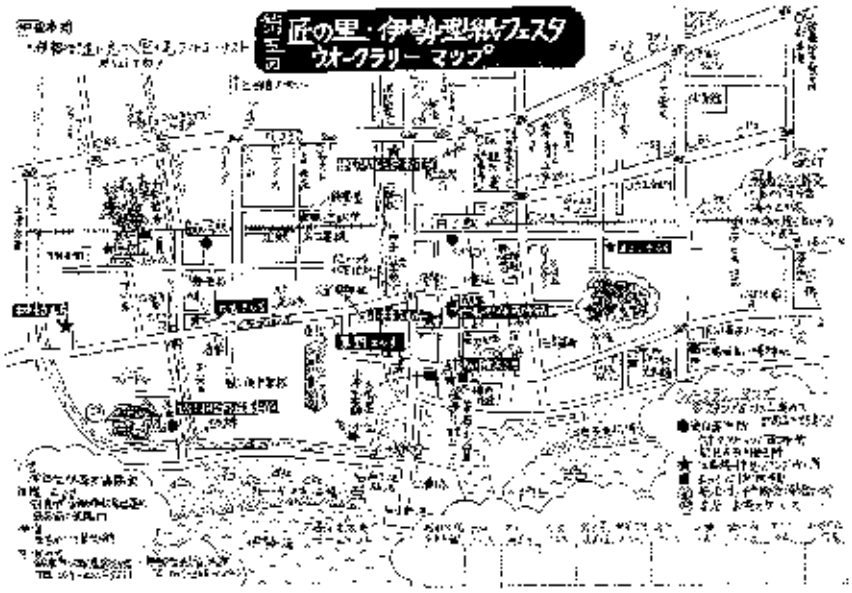
「匠の里　伊勢型紙フェスタ」学生スタッフとしての支援活動

１　「匠の里　伊勢型紙フェスタ」との連携について

「匠の里　伊勢型紙フェスタ」は、鈴鹿市の伝統工芸品産業である伊勢型紙の振興を目的として、平成 20 年からスタートしたイベントです。

イベントは、伊勢型紙産地協議会や白子まちかど博物館などの実行委員会で企画、運営されており、伊勢型紙とその産業を育んだ白子・寺家地区の歴史に触れていただける機会を提供し、一人でも多くの方に伊勢型紙やこの地域を知っていただくために開催しています。

平成 24 年 11 月 3 日（土）4 日（日）に開催された第５回「匠の里　伊勢型紙フェスタ」では、県が実施する「高等教育機関と地域との連携の仕組みづくり推進事業」と連携いただき、鈴鹿市内の高等教育機関（鈴鹿国際大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿工業高等専門学校）の学生延べ２３名も参加し開催されました。



２　「第５回匠の里　伊勢型紙フェスタ」での学生スタッフとして支援活動

イベント当日は、学生スタッフは、白子駅、鼓ヶ浦駅での来場者へのご案内、お茶席手伝い、子ども向け宝探しイベントの受付などの役割を担いました。伊勢型紙は、友禅や小紋などの柄や文様を着物の生地に染めるために用いることから、着物を着てのおもてなしや町歩きをすることによるＰＲも行いました。

■ 白子駅、鼓ヶ浦駅でのＰＲ

■お茶席手伝い

■ 子ども向け宝探し受付等

２　地域のイベントに学生が関わることについて

このように、地域の祭りやイベントに学生が関わることについて、地域側、学生側からは以下のような意見がありました。

■ 主催者（地域）等から見た学生の参加について

・ 伊勢型紙の関係者は高齢化しており、自分達だけでは、このようなイベントは難しい。地域の方や学生さんが参加して手伝ってもらえるからこそ、いろいろなことに挑戦できる。
・ ボランティアとしてだけでなく、この地域や伊勢型紙のことを学生さんにも知ってもらいたいという気持ちもある。そのため、ボランティアスタッフとしてだけでなく、イベント参加者としてもまちあるきをして、気づいたことを次回へ生かしていただけるとありがたい。
・ 今後、継続していくためには、日頃から地域と学生が関わる機会を持つことが大切。

■ 参加学生からの感想

・ 今回のイベントは、自分自身も楽しめたし、地域のことも学べたことが良かった。
・ ボランティアスタッフと主催者側（受け入れる側）が、当日のイベントの内容等について、もう少し共通理解しておけば、もっとスムーズに動けたのではないか。
・ イベントも楽しく、着物を着ることもできたので、参加できてよかった。ボランティアの仕事の内容（着物が着れる、お茶会の手伝いができるなど）を、事前にもう少し周知していれば、参加したいという学生がもっといたのではないか。

３　「伊勢型紙フェスタ」を通じて気づいたこと

当該イベントは地域と密着した事業であり、地域のことをもっと理解してもらいたいということも目的のひとつであるので、鈴鹿市内の高等教育機関（鈴鹿国際大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿工業高等専門学校）から学生が参加したことは、学びの場としてのメリットもあると考えられます。

実際に参加した学生からも「地域を知ることができてよかった」という声も多かったので、このような交流は、留学生や他県から三重県に来た学生にとっては、地域とつながりを持つきっかけとなると考えられます。

地域にとっては、高齢化等の影響もあり、今後、大掛かりな取組を行う場合には担い手不足が課題となるケースが想定されますが、若い世代の参加自体が地域に活力を生み、住民の皆さんのやる気やより積極的な参画に繋がる効果もあるのではないかと感じました。